

災害時に備え

オストメイトに支援の手

市内3カ所にストーマ用装具2334人分の保管庫設置

オストメイト(人工肛門や人工ぼうこう保有者)が片時も離すことができないストーマ(腹部につくられた排せつ口)用装具。千葉県松戸市は地震などの大規模災害が発生した時に備え、今春から市内の保健福祉セン

千葉県松戸市

ターに個人用の装具保管庫を設置し、備蓄できる取り組みを開始した。これは市議会公明党の織原正幸議員の提案により実現したもので、災害発生直後の装具確保に不安を抱くオストメイトやその家族に喜ばれている。

適合する装具をいかに迅速に確保するかが何よりも大切になる。

こうしたことから松戸市は、市内3カ所の保健福祉センターに2334人分の専用ロッカーを設置し、いざという時に必要なストーマ用装具の保管場所として活用してもらうことにした。

利用者は、1週間～10日分

の装具を旅行用バッグなどに収納し、個人別に用意された鍵付きロッカーに保管。長期間保管すると傷む可能性があるため、半年に一度は新しい装具に交換する。

これに先立ち、市は530人を対象に意向調査を実施。これまでに使用が決まった保管庫は160人分を数えている。実際に使用を始めた市民からは「震災が起きれば、どういふ事態になるか不安がつきまとうだけに、本当にありがたい」といった声も寄せられているという。

市内の公共施設の中で保健福祉センターを保管先として選んだ理由について、市障害福祉課は「利用者が装具交換などに訪れた際、センターにいる保健師がさまざまな相談や精神的なケアにも応じたりできるよう配慮した」としている。

公明議員の非常時の不安を解消 提案実現

織原議員は

織原議員は

昨年12月の本会議で、県では災害時に製造元から避難所にいるオストメイトに必要な装具が届けられる体制をとっているものの、現地に到着まで1週間ほどかかる可能性を指摘。この際、自分の装具を自宅から持ち出せなかったり、不足した場合に備え、保健福祉センターなどの公共施設に保管できる場所を設けるよう提案した。

さらに、今年3月議会で市議会公明党は、同議員の提案内容を一日も早く実現するよう



中央保健福祉センターでストーマ用装具保管庫の利用状況を視察する織原議員